

『神戸新聞』 「随想」 2019年7月11日夕刊

AI（人工知能）は人間を支配するか？

二〇二五年X月X日朝。目ざめると、AI（人工知能）から通知が届いていた。「あなたの健康と食品購入、及び、世界の食料と環境のビッグ・データを分析した結果、あなたは今朝八時に納豆ソバを食べるのが、最も正しい選択です。そうすれば、あなたの余命は0.01秒延び、世界の食料事情と環境にも負荷がかかりません」。私はもちろん、八時に納豆ソバを食べた。たしかにうまい。

昼、またAIから通知だ。「あなたのストレス度と趣味、及び、神戸の交通機関と娯楽施設の混雑に関するビッグ・データを分析した結果、あなたは午後二時に新開地の喜楽館に落語を聴きに行くのが、最も正しい選択です。そうすれば、あなたのストレスは効率的に癒され、混雑で事故が発生するリスクも減ります」。私はまたそれにしたがった。落語はとてもおもしろかった。

AIからの通知は、一日に百回ほど届く。そのたびに私は、それにしたがう。たまに、「私はAIに完全に操られ、支配されているのではないか」という不安が頭をよぎる。でもすぐ、それを打ち消す。ナマ身の人間の頭脳が、AIより正しい選択をできるわけがないではないか。AIに完全にしたがうことこそ、健康と環境と安全と秩序を守る健全な市民の最も理性的な選択であり、責務なのだ。

・ ・ ・
二〇一九年X月X日朝。目が覚めた。ああ、夢か。昨夜の暴飲暴食で、気分が悪い。このところずっと仕事に追われ、落語にも行けない。悪いとわかっていても、やめられないことばかりだ。AIに完璧にしたがうには、私自身がもう少し賢くなり、自分をコントロールできる人間にならなければならない。それができないあいだは、人間がAIに支配される心配はしなくてもよさそうだ。